

地方創生加速化交付金活用事業の成果検証について

○交付金活用事業名：狭山茶ブランド振興プロジェクト 交付額：12,388 千円 予算額：13,000 千円

○交付金の概要

国の平成27年度補正予算にて、一億総活躍社会の実現に向けた緊急対応として、「希望を生み出す強い経済」を実現するため、また、「子育て支援」や「安心につながる社会保障」も含め「新・三本の矢」の取組に貢献するため、地方創生加速化交付金が創設された。

○外部有識者による成果検証

実施する施策・事業については、成果を客観的に検証するための重要業績評価指標（KPI）を設定して進行管理を行っていくことになるが、その成果の検証については、国から妥当性・客観性を担保するために外部有識者による検証が求められている。

本市の主要産業である「狭山茶」の若手茶業者の生産意欲の喚起、将来、地域を担う子どもたちへの狭山茶への造詣の涵養を図る事業となっているか客観的な視点でKPIの達成度の検証を行い、必要に応じて改善を図る。

○事業の背景・概要

本市が主産地となる「狭山茶」は、生産量、栽培面積とも県下一を誇っており、熟達した製茶法と「狭山茶火入」と称する独特の火入の真髄を発揮し、深みと濃い味わいのあるブランド茶として親しまれている。歴史と伝統のある狭山茶は、市民にとっても入間市を語る上で欠くことのできないものと認識されており、狭山茶業を活性化することは、すなわち入間市を活性化する起爆剤足り得るものでもある。

2020年のオリンピックやその前年のプレ大会等の開催が予定され、内外の観光客が首都圏に訪れることから、狭山茶の魅力を発信していくことで、若手茶業者の生産意欲の喚起、将来地域を担う子どもたちへの狭山茶への造詣の涵養を図り、狭山茶の魅力を通じて地域住民がふるさとへの誇りと未来に夢が持てる事業とする。

狭山茶産地には、付加価値の高い高品質な茶葉、活動場所としてのお茶の博物館や県茶業研究所、生産者や日本茶インストラクターといった人材、茶関係団体や研究者・研究機関などとのネットワークといった諸条件が、十分に整っている。また、首都圏の一角にある産地として、消費者がすぐそばにいるということも好条件である。

本事業は、その手始めとして茶業者が積極的に消費者と交流するいくつかの取組を通じて、狭山茶の良さをアピールし、日常的な喫茶への興味を喚起することを狙いとする。また、高品質な茶葉の生産を継続していくための基盤として、製茶用の機械を整備し、若手茶業者への技術伝承にも取り組んでいく。

本市は、現在全国の茶産地を巡回して実施している「全国茶サミット」発祥の地でもあり、次の展開としては、狭山茶を生産している周辺自治体との地域間連携、全国各地の茶産地や茶業及び茶文化関連団体等との連携を通じて、日本茶の伝統の継承にも寄与していきたいと考えている。

この事業は、狭山茶を通じた市民のシビックプライドの醸成と、日本茶の伝統文化の保存・活用という2つの目的を達成するための第一歩の取組とする。

●個別事業の取り組み

交付金対象事業及び事業概要	担当課の検証	有識者会議の検証
T-1 グランプリ（補助金 600 千円） 小学生3年生から6年生までを対象にお茶の淹れ方審査など3つのお茶競技で総得点を競い合い、日本茶（狭山茶）のチャンピオンを決定するイベントである。美味しい狭山茶のことをもっと知ってもらい、健康・家族団らん・おもてなしの心を深めてもらうことを目的に企画したイベント。実施主体は若手茶業者。	<ul style="list-style-type: none"> ・80人の参加があり、前年度の53人を超える参加者を得ることができた。 ・参加した児童に対して、狭山茶の魅力と郷土への理解深化、思いやりの心を育むなど食育の効果を得た。 	

交付金対象事業及び事業概要	担当課の検証	有識者会議の検証
<p>茶摘み体験（委託料 150 千円）</p> <p>八十八夜新茶まつりに配布する一煎パック用にハウス栽培の狭山茶を摘み取る。摘み手はボランティアを広く市内外に求め、茶摘み体験をすることにより茶摘みや狭山茶に興味がある人を、更なる狭山茶のファンを獲得する。</p>	<p>12人（市内6人、市外6名）の市民参加と市職員及びその家族の参加希望者24人を加えた総勢36人の参加を得て実施し、普段体験できない茶摘み体験と新茶を味わってもらい、その魅力をPRすることができた。</p>	
<p>八十八夜新茶まつり（委託料 300 千円）</p> <p>立春から数えて八十八日目、夏も近づく八十八夜と文部省唱歌にも歌われた5月1日に、新茶まつりを開催する。まつり当日は市の特産である狭山茶の苗木や一煎パックの配布、手揉み茶の実演、新茶の販売、お茶のてんぷらの実演、新茶の湯茶接待、お茶の美味しい淹れ方教室など狭山茶を市内外にアピールする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と茶業者の連携を得て、約 2,350 人の来場者を得た。 ・直接消費者に狭山茶の魅力を訴求できた。 ・実施後の報道記事等により内外に魅力を発信出来た。 	
<p>6次産業化推進用狭山茶配布事業等（消耗品費 808 千円）</p> <p>健康福祉センターや観光協会のイベントなど、様々な機会を通じて健康に良いことや美味しさを消費者に実感してもらうため、狭山茶の一煎パックを配布する。また、6次産業化へ向けた取組みとして、オリジナルデザインの袋にパッケージした緑茶を配布する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり一煎パックを配布した。 ・市内産狭山茶の美味しさをPRできた。 ・オリジナルパッケージ制作による話題づくりができた。 ・6次産業化推進の基礎となった。 	
<p>狭山茶のぼり旗設置事業（消耗品 500 千円）</p> <p>新茶の時期に合わせ、市内の主要な駅及び幹線道路にPR用ののぼり旗を設置して「茶の都いるま」を印象付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市観光協会と連携し、のぼり旗を制作した。 ・狭山茶の新たなイメージを創出することができた。 	
<p>茶どころ体験教室（委託料 30 千円）</p> <p>狭山茶の主産地としての魅力を消費者に発信するため、「狭山茶どころ体験教室」を開催し、茶摘み体験を実施する。摘み取った茶葉は新茶に加工し、参加者へ配布する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・茶業協会と市国際交流協会が連携し、事業を実施した。 ・インバウンド受入れを睨み、ドイツの姉妹都市の市民を対象とした。 ・狭山茶を使った和菓子作りや美味しい狭山茶のいれ方の体験を実施した。 ・参加者及び国際交流協会市民スタッフより高い評価を得ることができた。 	
<p>製茶機械更新事業（機械器具購入費 10,000 千円）</p> <p>市が所有する農業研修センターの老朽化した製茶機械を更新し、引き続き製茶品評会の上位入賞を目指す。それによる市内産狭山茶の製茶技術の向上、品質の向上を通じてより高いブランドイメージの向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり機械を更新することができ、出品茶の品質の維持向上による産地ブランド力向上を図ることができたこととなった。 ・機械の更新により、製茶技術の向上を目指す茶業者の活動支援の継続が図られた。 	

○交付金活用事業の評価

本事業における重要業績評価指標（KPI）

小学生のイベント参加者数の目標値：40人 実績値 80人

八十八夜新茶まつり目標値：2,200人 実績値 約 2,350人